

# 子ども特派員 わが街を行く！

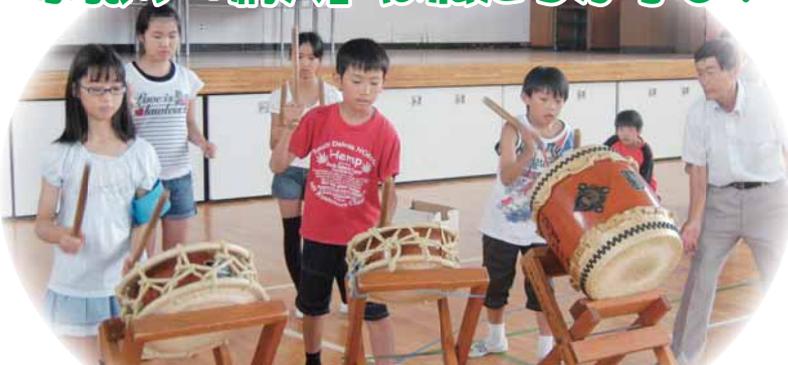
この紙面は、自分の住んでいる街や校内活動を、自分たちで取材・編集する「子ども特派員」とともに編集しています。

今回の「子ども特派員」は、小張小学校6年生の檜山哲さん（下段左）、大橋晶斗さん（下段中央）、加藤彩未さん（下段右）、小管梅衣さん（上段左）、森岡樹里愛さん（上段中央）、会沢碧亜さん（上段右）が、国の重要無形民俗文化財に指定されている「小張松下流綱火」を紹介します。



今回の特派員は、私達です！

## 小張の「綱火」は私たちが守る！



私たちの小張小学校では、夏が近づく太鼓や笛の音が校内に響き渡ります。これは、毎年8月24日に行われる「小張愛宕神社祭礼」の前日に行われる「くりこみ」で演奏されるおはやしの練習の音です。小張小学校では、約20年前から、地元

に約400年以上前から伝わる「綱火」に関わりを持ってきました。「綱火」とは、江戸時代の初めに、小張城主「松下石見守重綱」によって考案され、重綱が転勤するときに、家来である「大橋吉左衛門」に受け継がれたものです。吉左衛門の子孫は、代々綱火家元になり、400年以上もの間「綱火」を続けてきたのです。そして、毎年8月24日になると、綱火保存会の方々が、愛宕神社の前で色鮮やかな花火とともに、人形を操っています。そんな「綱火」ですが、昔は戦勝祝いや、戦いで亡くなった人の霊をなぐさめるために行われてきました。今では、五穀豊穡・火難除けを願うために行われるそうです。



毎年6月に入ると、綱火保存会の皆さんが「くりこみ」で使う楽器や、人形を綱であやつる「綱あやつり」を教えに小張小学校を訪ねてくれます。楽器は、6年生が担当し、太鼓、鉦、笛の3つがひとつになるようなリズムを合わせます。「綱あやつり」は初めて参加する5年生が担当します。これは、とても力が必要で大変です。5年生にインタビューすると「すごく難しいけど、楽しい」と言っていました。

私たちが「綱火」に関わることは、この地区に続く伝統文化にふれることができるとても良いきっかけです。私たちが一生懸命練習して良いものを作り上げ、次の学年の子たちに引き継いでいきたいです。そして、これからも「綱火」を守っていきたいと思います。

